

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	消防“夢”コンサート						施策番号	
							I-1-(2)-⑤	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	1,050 千円 (備考)	担当局	消防局
		0 千円	0 千円		課長	0 人 職員 0.14 人	担当課	人事企画課
			係長		0 人	課長名	小清水	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	市内の小学校(特別支援学校含む)に出向き、音楽教育の一環として実施しているコンサートです。消防音楽隊による生演奏やカラーガード隊の統制された演技を通じて、本物の音楽の素晴らしさや多くの仲間と音楽を創造するチームワークの重要性を伝える等「心の教育」を実践しています。また、火災をはじめとする災害の注意喚起を行い、幼少期からの「防火・防災思想」の高揚及び普及を図ります。				成果実績	下記の成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	「消防“夢”コンサート」アンケート結果で「非常に良かった」と回答した人の割合		100 %	H24年度調査予定		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	実施学校からは多数のお礼の手紙等ももらい、好評を得ていることがわかります。加えて平成24年度からは、評価について数値で表すことができるようアンケートを実施します。 (最終目標と目標年度) 平成25年度 アンケート結果「非常に良かった」100%			%	大変順調				
					%	順調			
(最終目標と目標年度)				%	やや遅れ 遅れ				

活動計画	学校側の人事異動等を考慮し、新年度に募集通知を出すことで依頼校の増加を図ります。また、やむを得ない公演の中止に対し、振り替え公演等の救済措置を行います。 平成23年度についても、年間50校を目標に本事業を実施します。						活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】				
	年間開催学校数		60 校	50 校	42 校	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック				
	消防音楽隊の他の出演とのバランスから年間50校程度の実施を維持することが適切であり、公演内容を毎年変更する、募集時期をより効果的に変更するなどの工夫により依頼校の確保に努めます。				84.0 %					
					%	大変順調				
				%	順調					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	成果の状況、活動の状況、いずれも順調です。 子どもたちが「防火・防災」について認識を持ち、家庭・地域生活の中で実践していく力を育むことは、将来の北九州市を「災害に強いまち」にするためにも重要なことであるため、今後も積極的な取組みを進めていきます。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	これ以上コストを削減する余地はなく、より高い効果を得るため出演に工夫を行っています。また、新しい楽曲・流行曲の演奏を常に心がけ実施しているため、常に新鮮な事業・演出であるものと考えられます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	平成24年度から実施しているアンケート結果では、「非常に良かった」「良かった」と回答した人は目標である100%を達成できる方向で推移しています。しかし、年間開催学校数が、目標の50校に達していないため、各小学校と調整を図りながら、積極的な広報活動を推進していく必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	アンケート結果は、目標を達成できる方向で推移しているため、これに満足することなく、本事業の良さを知ってもらえるよう、これからも依頼校の確保に努めていく必要があります。事業費をかけることなく、より高い効果を得るため演出等の工夫に努めます。	平成24年度から実施しているアンケート結果満足度100%を継続できるよう努力していきます。また、火災をはじめとする災害の注意喚起を行い、幼少期からの「防火・防災思想」の高揚及び普及を図ります。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	消防士さんといっしょ						施策番号			
							I-1-(2)-⑤			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	2,700 千円	(備考)	担当局	消防局	
		1,279 千円	1,530 千円		課長	0.05 人		職員	0.15 人	担当課
			係長		0.1 人			課長名	内藤	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	防火・防災のプロである消防職員が「ゲストティーチャー」として小学校に出向き、各小学校の協力を得て、社会科教育の一環として「消防のしごと」の授業を行うことにより、児童への防火・防災教育の充実を図ります。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	--------------------	--	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		「消防士さんといっしょ」対象校の年間実施率			100 %	
	市内すべての小学校(ただし、特別支援学校及び複式学級等を除く)を対象とした年間実施率です。将来を担う子どもたちに「防火・防災」について認識をもたせることは、北九州市を「災害に強いまち」とするための基盤として重要なことであるため、実施率100%と設定しました。 (最終目標と目標年度) 実施率100%を維持する。	100 %	100 %	100.0 %		
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

活動計画	授業はもちろんのこと、「スモークマシンを活用した煙体験」、「消火器(訓練用)の取扱い」、「119番通報訓練」、「空気呼吸器、消防用ホース等の資器材の取扱い」といった児童が実際に体験出来るような内容を多く取り入れ、消防局でしか出来ないような授業を展開していきます。 また、講師については様々な体験談を踏まえながら授業を実施しているため、全て消防職員が担当しています。	活動実績	活動結果は、下記のとおりです。
-------------	---	-------------	-----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		アンケートの回答結果			100 %	
	実施学校にアンケート調査を実施した結果、児童の反応についての問いに「非常に良かった」「良かった」と回答の集計結果及び「今後もこの授業は継続したいか」との問いに、「希望したい」と回答の集計結果を100%と設定しました。	100 %	100 %	100.0 %		
				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	成果の状況、活動の状況、いずれも順調です。 子どもたちが「防火・防災」について認識を持ち、家庭・地域生活の中で実践していく力を育むことは、将来の北九州市を「災害に強いまち」にするためにも重要なことであるため、今後も積極的な取組みを進めていきます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業での使用資機材(スモークマシン等)については、各署2台という少ない数で計画的に使用し、経済的、効率的に実施できました。 また、講師については、本事業が消防職員の体験談を踏まえた授業内容を構成しているため、他の実施主体(委託等)は考えられません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 「成果指標」及び「活動指標」について、平成23年度に引き続き平成24年度も目標(100%)を達成できる方向で推移しています。使用資機材(スモークマシン等)についても、例年通り経済的、効率的に活用しています。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	今後も、本事業を継続できるように、「職員の育成指導」や「教育委員会及び各小学校と調整」を図りながら、積極的な取組みを推進していきます。 平成25年度の購入資機材(種類・個数等)は平成24年度と同様ですが、事業費は実績ベースで見直したため、縮小しています。	次年度も「対象校の年間実施率」100%を目標とします。 本事業を通じて、子どもたちが「防火・防災」についての認識を持ち、家庭・地域生活の中で実践していく力を育んでもらい、さらには将来の北九州市を「災害に強いまち」にするためにも、継続実施していきます。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	「スクール救命士」事業の推進						施策番号		
							I-1-(4)-③		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	26,313 千円	(備考)	担当局	消防局
		560 千円	767 千円		課長	0.125 人 職員 2.65 人		担当課	救急課
					係長	0.5 人		課長名	竹村

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	全市民が応急手当ができる安全・安心なまちとなるよう、小学校、中学校、高校と育育段階に合わせた応急手当の講習を実施します。			成果実績	下記の代表的な指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 <small>(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)</small>	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	小学校の応急手当講習実施率	10 %	25 %	24 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	最終的には市内全ての小学校での実施を目指します。 <small>(最終目標と目標年度) 平成27年度100%</small>			96.0 %				
	中学校の応急手当講習実施率	42 %	60 %	46 %		順調		
	最終的には市内全ての中学校での実施を目指します。 <small>(最終目標と目標年度) 平成26年度100%</small>			76.7 %				

活動計画	講習実施を希望する学校で講習を実施するとともに、未実施校に対し事業の有用性を説明し実施を促します。			活動実績	学校長会会長会で本事業の説明を行い、全校に対して本事業の紹介を直接何回も行った結果、平成24年度の実施希望校が増加しています。			
活動指標	指標 <small>(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)</small>	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	講習の実施及び促進	講習の 実施及び 促進	実施	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	講習実施を希望する学校で講習を実施するとともに、未実施校に対し事業の有用性の説明し実施を促します。			%				
				%		大変順調		
	%							

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	各学校において、学習指導要領に含まれていない授業時間を確保することは難しく、本事業の推進にあっては、各学校の判断によるため、全校実施には至っていません。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は、可能な限りの短い時間、少ない人件費での実施を行っているため、現状より低いコストで実施することはできません。また、応急手当の普及啓発活動は国の通知により、市が行うことが義務付けられているので、民間活力導入はできません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 消耗資器材及び指導者を確保することが困難となっていますが、引き続き資器材の適正管理を行い、入念なスケジュール調整で効率的な指導員派遣を行います。また、受講希望としていない学校は少数となったので、直接事業の紹介等を行います。	次年度の活動計画(見直し内容) その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	引き続き、実施を希望する学校で講習を実施するとともに、未実施校に対し、事業を紹介しなす。なお、実施校の増加に伴い、事業費は増額しています。	平成25年度については、小学校80%、中学校90%での実施を目標とします。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	応急手当の普及啓発						施策番号		
							Ⅱ-1-(2)-①		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	20,313 千円	(備考)	担当局	消防局
		1,383 千円	1,795 千円		課長	0.125 人 職員 1.85 人		担当課	救急課
					係長	0.5 人		課長名	竹村

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 突然の病気や怪我等により傷病者が発生した場合に、傷病者のそばにいる市民が適切な応急手当を行うことで、傷病者の救命効果は向上します。また、AEDの使用が一般的にも認められたことにより、さらに市民の応急手当による救命効果の向上が期待されています。そこで、AEDの取扱いも含め、市民に対する応急手当の普及啓発活動を推進します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	--	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	応急手当講習の受講者数	傷病者のそばにいる市民が適切な応急手当を行うことで救命効果は向上します。多くの市民にその知識・技術を学んでいただくことを目的としています。 (最終目標と目標年度)平成25年度 受講者数30,000人	29,958 人	30,000 人	34,741 人 115.8 %	
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

活動計画	市民からの受講依頼に対し、講習を実施するとともに、市政だよりや市HPで啓発を行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	講習の実施及び広報	市民からの受講依頼に対し、講習を実施するとともに、市政だよりや市HPで啓発を行います。		講習の実施及び広報	実施 %	
				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 個人で受講する講習では、毎回定員に達する受講者であり、各消防署で実施する団体での講習を含め、目標値を上回る受講者数となりました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 誤った知識・技術を指導してはならず、救急隊員をはじめとした消防職員での指導を行うためコストの削減は困難です。しかし、消防団員及び救命ボランティアの会の皆様並びに応急手当普及員の積極的な協力(平日・土日祝日を問わず、講習のアシスタントを担ってくれる)により人件費を大きく削減できています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 消耗資器材及び指導者を確保することが困難となっていますが、引き続き資器材の適正管理を行い、消防団員及び救命ボランティアの会員と積極的に連携し、指導者の確保及び質の向上に努めます。 次年度の活動計画(見直し内容) 引き続き市民からの受講依頼に対し講習を実施するとともに、市HP等で個人向け講習についても広報していきます。また、資器材の適正管理並びに応急手当普及員講習により指導者の確保及び質の向上を行います。
	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 受講者30,000人以上を目標とします。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	救急救命士の資格取得研修							施策番号	
								Ⅱ-1-(2)-①	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	9,275 千円	(備考)	担当局	消防局
		11,867 千円	18,383 千円		課長	0.05 人 職員 0.96 人		担当課	救急課
			係長		0.15 人	課長名		竹村	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	救命効果の向上を目的に、救急現場で気管挿管又は薬剤投与のできる救急救命士を養成します。気管挿管・薬剤投与は、近年拡大された救急救命士の特定行為のため、それ以前に資格を取得した救急救命士に対する追加研修です。気管挿管・薬剤投与の資格取得には、特別の研修と病院実習が必要です。	成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、救急現場で気管挿管又は薬剤投与のできる救急救命士を養成することで、救命効果の向上が図れるものと考えます。
-----------	--------------------	--	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	救命効果の向上	救急現場で気管挿管又は薬剤投与のできる救急救命士を養成します。今後全救急隊に配置し、高度な救命処置ができるよう養成することを目標としています。 (最終目標と目標年度)				
(最終目標と目標年度)				%	→	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

活動計画	救急救命九州研修所で行われている薬剤投与追加講習は平成25年度で終了します。また、定年退職による救急救命士の減少にも対応していくために、平成24年度から平成25年度の間には薬剤投与を行う認定救命士のさらなる養成を計画していきます。気管挿管認定救命士の養成は継続的に実施していきます。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	薬剤投与を行う認定救命士養成数	薬剤投与を行う認定救命士養成数を示しています。救急高度化の指標とし、養成機関、実習医療機関の受入状況などから養成可能と考えられる人数を値としています。	9 人	13 人	13 人 100.0 %	
気管挿管を行う認定救命士養成数	気管挿管を行う認定救命士養成数を示しています。救急高度化の指標とし、養成機関、実習医療機関の受入状況などから要請可能と考えられる人数を値としています。	6 人	3 人	3 人 100.0 %	→	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	目標どおり達成しました。 薬剤投与・気管挿管を行う認定救命士について、目標とする人数を養成しました。 平成25年度で救急救命九州研修所での薬剤投与追加講習が終了することを考慮し、より多くの認定救命士を養成するため、薬剤投与を行う認定救命士を優先して養成しています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	気管挿管認定救命士は他都市より短期間でできる市内の協力病院で行っています。薬剤投与追加講習も市内の研修所で行う等、最も低いコストで行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題
	平成23年度は目標を達成することができました。平成24年度は薬剤認定救命士17名を養成し、さらに現在5名を養成中です。気管挿管認定救命士も目標達成に向け8名を養成中です。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成25年度は薬剤認定救命士を追加で7名、新規でも5名養成する予定です。なお、平成25年度で薬剤投与追加講習が終了することに伴い、平成24年度は例年に増して薬剤認定救命士を養成したため、平成25年度の事業費は減少しますが、薬剤投与、気管挿管認定救命士ともに市民サービスの平等化を図るため、可能な限り養成をしていく予定です。
	薬剤投与、気管挿管認定救命士について、将来的に各救急隊1名配置することを目指し、救急行政の低下をきたさないよう計画的な養成を継続していきます。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	児童見守り消防隊						施策番号	II-1-(3)-①
	コスト	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	75 千円 (備考)	担当局	消防局
0 千円		0 千円	課長		0 人 職員 0.01 人	担当課	警防課	
			係長		0 人	課長名	梶嶋	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 児童が登下校時等に犯罪に巻き込まれないよう、関係機関と連携し、安全確保を行います。具体的には、児童の登下校時に声掛けをしたり、業務出向時に通学路のパトロールを実施します。	成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、パトロールを通じ、地域住民との信頼関係の構築が進んでいると考えています。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	関係機関と連携した児童の安全確保	—	児童の安全確保	—	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	児童の安全が確保された状態を目指しますが、その状態を数値化することは現在は困難です。今後、代替指標などの検討を行います。 (最終目標と目標年度) 児童の安全確保			%		
				%	やや遅れ 遅れ	大変順調
(最終目標と目標年度)						

活動計画	児童が登下校時に犯罪に巻き込まれないよう、通常業務に支障のない範囲で積極的に市内全小学校区での「児童見守りパトロール」を実施します。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	市内全小学校区での「児童見守りパトロール」の実施件数	2,426 件	3,000 件	2,142 件	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	児童が登下校時に犯罪に巻き込まれないよう通学路等のパトロールを実施します。目標値については、年間登校日数約200日×登下校2回×7区に各区の実情を加味した数値としています。			71.4 %			
				%	やや遅れ 遅れ	やや遅れ	
(最終目標と目標年度)							

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	消防隊の業務出向時等の通常勤務の中で実施する事業であり、当該事業のみに特化して実施するわけではないので、最大限の効果が挙げられているとは言いがたいところがありますが、当事業により、地域住民との間に信頼関係が築かれつつあり、こういった地域に密着した地道な取り組みを継続することで防犯効果が上がっていくものと考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	消防隊の業務出向時等の通常勤務の合間で実施する事業であるので、コストを必要とせず効率的であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 消防隊の通常業務の範囲内で実施している事業であることから、災害出動やその他業務との兼ね合いを考慮しつつ、目標件数を達成することが課題です。	次年度の活動計画(見直し内容) その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	災害出動や通常業務に支障とならない範囲で積極的に事業を実施していきます。見直し内容としては、平日の登下校時間帯を中心とした見守り活動から範囲を広げ、土日祝日についても、公園等児童が集まる場所を中心に見守り活動を実施していきます。	当事業の成果を毎年度数値で表すことは困難ですが、児童見守りパトロール目標件数3000件を目指すことで、犯罪や交通事故に巻き込まれないよう、児童に安全安心を提供します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	自主防災組織(市民防災会)							施策番号	
								Ⅱ-1-(4)-①	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	5,800 千円	(備考)	担当局	消防局
		6,700 千円	6,700 千円		課長	0.2 人 職員 0.2 人		担当課	警防課
					係長	0.2 人		課長名	松本

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にした いのか	地域防災力の向上を目的に自主防災組織「市民防災会」の育成指導を行います。 育成指導については、各区で実施している防災訓練、防災講演会等の市民防災推進行事への参加により自主防災の意識付け、地域防災力の向上を図ります。 現在、市内全域の校区・地区(194校区・地区)に設置されており、維持・継続します。	成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、訓練や地域とのつながりを通し、災害予防や有事の際に即応できる状態を目指しますが、今後代替指標の設定など検討を行います。
-----------	-------------------------	---	-------------	--

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【成果の状況】
	地域防災力の向上	地域防災力の向上を数値で示すことは困難ですが、今後代替指標の設定など検討を行います。 (最終目標と目標年度)		地域防災力の向上	—	
(最終目標と目標年度)				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	防災訓練、防災講演会などの市民防災推進行事への参加 すべての市民防災会(194校区・地区)が、防災訓練、防災講演会などの市民防災推進行事に1回以上の参加することにより、自主防災の意識づけ、地域防災力の向上を図っていきます。	活動実績	市民防災推進行事への参加
-------------	--	-------------	--------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	各市民防災会の市民防災推進行事への年間参加回数	全ての市民防災会(194校区・地区)が年間1回以上の参加を目標としています。	194 回	194 回	194 回 100.0 %	
(最終目標と目標年度)				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

【Check】評価(分析)

分析及課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	全ての市民防災会が、防災訓練、防災公演会などの市民防災行事に1回以上参加することにより、自主防災の意識付け、地域防災力の向上を図れたものと考えます。 しかし、市民防災会の結成率及び訓練等の活動並びに参加人数等、定着しているものの、年齢構成にばらつきがないことや参加者が常に同一人物になるなどの課題があります。
「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	毎年、必要経費の見直しを図っており、経済的・効率的に事業を推進しています。	

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 市民防災会の組織に関することとして、組織年齢の高齢化や防災訓練の参加者が固定されるなどの課題があります。また、役員の他団体(まちづくり協議会や社会福祉協議会等)との兼務による負担も挙げられます。 解決の方向性として、母体となる自治会への若手等加入者の促進や各種イベントを活用した幅広い層の参加者が見込まれる防災啓発を企画するなどの工夫を検討していきます。
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
従来実施してきた防災訓練や防災講演会等の防災行事に加え、起震車(平成24年度導入)を活用した地震体験訓練を実施するなど実体験型の防災啓発を推進していきます。	地震による揺れの怖さを体験し、災害を身近に感じることで、防災意識の高揚及び災害に対する知識のより一層の向上に努めます。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	魅力ある消防団づくり						施策番号		
							Ⅱ-1-(4)-②		
コスト	事業費	平成23年度執行額 0千円	平成24年度当初予算額 0千円	人件費 の目安	金額 27,300千円	課長 0.2人 職員 2人	係長 1人	(備考) 消防団系の事業は全て、「魅力ある消防団づくり」へと繋がっている。	担当局 消防局
					課長 0.2人 職員 2人			担当課 警防課	
						係長 1人		課長名 柘嶋	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	消防団が活動しやすい環境づくりを行い、消防団活動のより一層の充実を図ることで、地域の防災力を高め、また、その活動内容を市民へ周知することで消防団への認知度を高め、魅力ある消防団づくりに繋げていくことを目指します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	消防団員充足率	96.2 %	95.0 %	96.4 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	消防団の魅力と消防団員充足率は比例するものと考え設定しました。今後、全国平均を大きく上回る、充足率95%以上の維持を目標として設定します。 (最終目標と目標年度) 充足率95.0%以上の維持			101.5 %		
	(最終目標と目標年度)			%		大変順調

活動計画	消防団員意見検討委員会の検討結果を踏まえ、改善すべき事業に優先順位をつけ、実施していきます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	消防団員意見検討委員会の年間開催回数	1回	1回	1回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	消防団員から意見を幅広く汲み上げ、消防団の活動環境の改善を図るため、消防団員意見検討委員会の年1回開催を継続実施していきます。			100.0 %		
	(最終目標と目標年度)			%		大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	成果の状況、活動の状況、いずれも大変順調です。本年度で3年目となる「消防団員意見検討委員会」も定例化でき、消防団員の意見をうまく反映させる体制ができています。その結果、「魅力ある消防団づくり」に繋がっていると考えます。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	人件費のみの事業であるため、コスト削減は見込まれません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	消防団の活動内容をより多くの市民に知ってもらうと共に消防団の認知度を高めることで、消防団員がより活動しやすい環境をつくっていきます。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	「消防団員意見検討委員会」の意見を反映できるよう事業を進めていきます。	消防団員の充足率95%以上を維持します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	消防団施設整備						施策番号				
							II-1-(4)-②				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	5,470 千円	(備考)	担当局	消防局		
		70,437 千円	34,300 千円		課長	0.03 人		職員	0.55 人	担当課	警防課
					係長	0.1 人				課長名	柁嶋

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	消防団施設は、地域防災の要である消防団の活動拠点です。その中でも老朽化等により、移転や新築が必要な施設の整備を行います。	成果実績	成果を数値で示すことは困難であるが、施設の整備により地域防災力は向上したと考えています。
-----------	--------------------	--	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	消防団施設整備による地域防災力の向上	地域防災の要である消防団施設の整備により防災力が強化された状態を目指します。 (最終目標と目標年度)			%	
(最終目標と目標年度)				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	やや遅れ

活動計画	予算のコストを抑えるために、極力市の未利用地や地域が持つ共有地等の中から消防団施設の選定を行い、旧耐震基準に満たない施設から早期に新築工事を実施していきます。(消防団施設2施設を新築予定)	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	消防団施設新築候補地の検討	消防団施設を適地で新築するため、候補地を検討します。	候補地検討	候補地検討	%	
消防団施設整備	消防団施設整備に係る予算は、1件の額が大きく、計画的に新築工事を実施していく必要があるため、年間2施設という設定が現状では適当だと考えています。 【平成23年度】 ・八幡西消防団第2分団本部移転新築工事 ・若松消防団第7分団有毛第2支部現地建替え工事	2 施設	2 施設	1 施設 50.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	やや遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	活動の状況にあつては、2施設中1施設が平成24年度への繰越事業となったため、「やや遅れ」としました。 適正工期を設け、2施設の整備事業を計画しましたが、若松消防団第7分団有毛第2支部については、杭工事を行うため掘削したところ、埋蔵物が発見されたため、再設計の必要が生じ、工期期間が延長されました。しかしながら、平成24年5月末に完成し、事業完了となりました。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。」	狭隘、老朽又は耐震基準を満たしていない消防団施設の管轄にある未利用地を、優先的に活用するなど、最低限のコストで実施しています。 また、各委託契約に関しても、適正な契約事務を行っており、コスト削減の余地はありません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	平成23年度の活動指標としていた、消防団施設の2施設整備は完了しました。平成24年度の消防団施設整備事業については、1施設の移転新築事業ですが、敷地の確定等に時間を要したため、年度内に完了することは困難な状況です。実施設計までは年度内に完了するため、平成25年度に竣工に向けて関係部局と連携し、事業完了に努めます。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	災害発生時には活動拠点となる消防団施設は、地域防災の要であり、市民の安全安心を守るため重要なものです。なお、消防団施設の完全耐震化に向けて、平成25年度は3施設の建築を予定しているため、事業費は増額しています。	毎年度、消防団施設を1または2施設を新築することで耐震化を図るとともに、消防団の充実強化、魅力の向上につなげます。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	消防署所の適正配置						施策番号				
							Ⅱ-1-(4)-②				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	10,075 千円	(備考)	担当局	消防局		
		34,680 千円	190,000 千円		課長	0.05 人		職員	0.6 人	担当課	人事企画課
					係長	0.5 人				課長名	小清水

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 人口動態及び都市構造の変化、または災害の大規模化など、消防を取り巻く環境の変化に対応した消防力(消防署所の開設や消防隊の配置)を整備します。 また、市民サービスの公平性の観点から、消防署所の適正配置や効率・効果的な部隊運用等を推進します。	成果実績	当事業の成果を毎年度、数値で検証することは困難ですが、消防署所の適正配置や効率・効果的な部隊運用等を推進することが、北九州市の「安全・安心なまちづくり」につながるものと考えます。
-----------	--	-------------	---

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
代表的な成果指標	消防力の向上					代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 大変順調
	消防署所の適正配置や効率・効果的な部隊運用等を推進することで、北九州市の「安全・安心なまちづくり」を目指します。 (最終目標と目標年度)			%		
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	

活動計画	【小倉北消防署】 平成24年度 建築工事 【八幡東消防署】 平成25年度 建築工事、竣工 【八幡西消防署】 平成26年度 建築工事 基本設計、地質調査 候補地選定 実施設計 予算要求(候補地決定次第) 設計	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
活動指標	消防署所移転候補地検討	外部機関に調査委託(八幡地区)	八幡地区消防署移転候補地の検討	八幡東消防署候補地選定		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 大変順調
	消防署を適地に移転新築するため、必要な事項について検討し、移転候補地を検討します。			%		
	署所整備に係る事業着手	小倉北消防署:基本計画	小倉北消防署:基本・実施設計 八幡地区消防署:予算要求	小倉北消防署:基本・実施設計 八幡東消防署:予算要求(基本設計、地質調査)	%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 外部機関に委託した八幡地区消防署整備調査結果を踏まえ、八幡地区の消防署を適所に移転新築するため、必要な事項について検討した結果、八幡東消防署について移転候補地を選定しました。本事業は、地域の防災拠点として、市民の安全・安心を守るために有用な事業であり、庁舎の耐震性の観点からも、早期に事業着手が可能と判断したことから早急に進めていく必要があります。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 現在、本事業について必要最小限の人数で対応しており、これ以上の職員削減は現実的に考えられません。また、事業に係る経費についても適正な契約事務を行っており、これ以上コスト削減の余地はありません。また、外部機関に必要な調査・検証等を委託することで、効率的な事業推進を図っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 小倉北消防署、八幡東消防署については、活動計画通りに事業が進捗しています。今後も市民の安全と安心を守るため、他部局と調整をしながら移転候補地を選定し、庁舎の耐震性の観点からも、早期に事業着手が可能なものから進めていく必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 活動計画通りに事業を推進していきます。また、八幡西消防署についても、地域の防災拠点として適所に移転新築するため、移転候補地の検討を継続します。特に平成25年度は、本市都心部の小倉北消防署を竣工することで、更なる消防力の強化を図ります。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	地区安全担当制度						施策番号				
							II-1-(4)-②				
コスト	事業費	平成23年度執行額 0千円	平成24年度当初予算額 0千円	人件費 の目安	金額	75 千円	(備考)	担当局	消防局		
					課長	0人		職員	1人	担当課	警防課
						係長		0人		課長名	柘嶋

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 市民の防災に関する関心と参画意識を高め、消防と地域住民が一体となった消防行政を展開することにより、安全安心の提供と市民に信頼される消防に取り組むものです。 具体的には、地域の防災訓練の指導や、地域会議に参加して地域住民との意見交換を行なうなど、地域に根付いた総合的な消防防災体制の構築を行う事業です。	成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、当事業を推進することで、地域に根付いた総合的な消防防災体制の構築を目指します。
-----------	---	-------------	--

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【成果の状況】
	地域に根付いた総合的な消防防災体制の構築	地域の防災訓練の指導や校区(地区)まちづくり協議会の定例会議へ参加するなど、市民生活の安全を守るための地域防災対策を実施します。 (最終目標と目標年度)		地域に根付いた総合的な消防防災体制の構築	—	
(最終目標と目標年度)				%		順調
(最終目標と目標年度)				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	

活動計画	市内全域を小学校区又は自治会単位に区分し、108隊の各消防隊がそれぞれの地域を担当し、市民防災会などの自主防災組織の育成指導、高齢者等の災害弱者対策及び市民生活の安全を守るための地域防災対策(防災啓発行事、放火防止対策、夜間駐車対策等)等を実施します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	市民生活の安全を守るための地域防災対策の実施件数	市内全域を小学校区又は自治会単位に区分し、108隊の各消防隊がそれぞれの地域を担当し、市民防災会などの自主防災組織の育成指導、高齢者等の災害弱者対策及び市民生活の安全を守るための地域防災対策(防災啓発行事、放火防止対策、夜間駐車対策等)等々、1時案1件として実施します。 各隊1日1件+毎月の地域会合出席を目標値の設定根拠としています。	11,314 件	15,000 件	9,417 件	
				62.8 %		やや遅れ
				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 消防隊の通常勤務の範囲内で実施していることから実績としては数値が減少しました。しかし、地域住民や地域企業との信頼関係が築かれつつあり、市民の防災に関する意識が高まっていると感じられることから、事業目的としては有効な活動であり、概ね計画通り事業が推進されていると考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 各消防署の職員により、通常業務の範囲内で実施しておりコストが発生しません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 消防隊の通常業務の範囲内で実施している事業であることから、災害出動やその他業務との兼ね合いを考慮しつつ、目標件数を達成することが課題です。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	災害出動や通常業務に支障とならない範囲で各隊1日1件以上を目標に事業を実施していきます。 なお、より効率的に地域との連携を図るため、係ごとに分散していた担当地区を消防署・分署・出張所ごとにするなどの検討を行い、地域の要望に即応できる体制を構築していきます。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	住宅防火対策						施策番号				
							Ⅱ-1-(4)-②				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	24,700 千円	(備考)	担当局	消防局		
		1,355 千円	1,679 千円		課長	0.8 人		職員	1 人	担当課	予防課
					係長	0.8 人				課長名	内藤

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	住宅火災での高齢者・障害者等の死亡率が高いことから、消防隊が高齢者宅等を訪問して防火指導等や、住宅用火災警報器の設置促進を図り、火災及び焼死事故等の低減と出火危険の排除を目指します。	成果実績	成果の状況は下記の通りです。
----	--------------------	---	------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		住宅用火災警報器の設置率 設置率の目標設定については、春(3月)・秋(11月)の火災予防運動期間中に市民を対象にアンケートを実施し、11月から3月の増加率で月平均を割り出し算出しています。 (最終目標と目標年度)全国水準を上回る設置率	78.7 %	全国水準を上回る設置率 %	80.9 %	
	(最終目標と目標年度)			% 大変順調 順調 やや遅れ 遅れ		

活動計画	消防隊が高齢者・障害者等の住宅を訪問し、防火指導を行うとともに、火災及び焼死事故等の防止を図ります。 住宅用火災警報器設置の必要性について、各種媒体やイベント等あらゆる機会を通して広報を行い、全ての住宅に住宅用火災警報器の設置を図ります。	活動実績	活動結果は、下記の通りです。
------	--	------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		住宅防火訪問件数 住宅防火訪問件数の目標値設定については、一消防隊あたり概ね30件で市内108隊が訪問した場合で算出しています。	3,399 件	3,000 件	2,837 94.6 %	
				% 大変順調 順調 やや遅れ 遅れ		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	住宅用火災警報器の普及啓発については、春・秋の火災予防運動期間中に「住宅用火災警報器設置促進キャンペーン」と位置づけ、訓練演習等での広報及びテレビ・ラジオ等マスメディアを通じた広報活動等、様々な広報活動を実施した結果、全国水準(71.1%)を上回る設置率となり、施策実現の効果があったものと考えます。 住宅防火訪問の目標値が達成できなかったことについては、東日本大震災を受け、市民からの防災講話や避難訓練等を優先させたことによるものと考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	あらゆる機会を捉えた広報活動を実施及び広報物の種類・発行部数等の見直しを行うことで事業費の削減と、経済性及び効率性の向上が図られました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 住宅用火災警報器は全国水準を上回る普及率であることから、今後も継続して設置促進の活動を進めていきます。 住宅防火訪問を実施する消防隊の、他の業務との兼ね合いを考え、目標件数を達成することが課題と考えます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	住宅防火訪問を実施する消防隊に対し、火災予防広報の必要性を再確認させます。 他の業務へ支障とならないような効率のよい実施を考察します。 市民等へ住宅防火訪問の必要性を広報し、地域協力を得ます。 平成25年度の事業費は、印刷物の委託料を見直して縮小しています。	住宅防火訪問目標件数3000件を目指すことで、市民等の火災予防への意識向上及び住宅用火災警報器の設置促進を図り、火災及び焼死事故等の低減と出火危険の排除を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	消防通信指令システムの充実・強化						施策番号			
							Ⅱ-1-(4)-②			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	18,450 千円	(備考)	担当局	消防局	
		193,799 千円	0 千円		課長	0.3 人		職員	1.2 人	担当課
					係長	0.6 人		課長名	岸本	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	消防通信指令システムは、消防指令システムと消防救急デジタル無線を合わせたシステムであり、操作性の向上、障害発生率の低下、情報伝達の迅速化等、確実な災害対応を可能にするため、指令センターと現場指揮本部等が災害情報をより円滑に共有できるシステムの構築を行います。	成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度数値で検証することは困難ですが、システムの強化は不可欠であり、事業を計画的に進めることで成果が上がるものと判断します。
-----------	--------------------	---	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	消防通信指令システムの運用	確実な災害対応を可能にするため、現消防指令システムの更新と消防救急無線のデジタル方式への移行を、平成26年度までに計画的・一体的に行います。 (最終目標と目標年度) 消防通信指令システムの運用(27年度)		消防通信指令システムの運用	— %	
(最終目標と目標年度)					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

活動計画	消防通信指令システムの構築に向けた基本設計を行うとともに、多重無線設備の更新を行います。	活動実績	
-------------	--	-------------	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	消防通信指令システムの基本設計の実施	工程表に沿って事業を実施します。		消防通信指令システムの基本設計の実施	完了 %	
多重無線設備の更新	工程表に沿って事業を実施します。		多重無線設備の更新	完了 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成27年度の消防通信指令システムの運用に向けた事業が、工程表に基づき順調に進んでいます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	現消防指令システムの更新と消防救急無線のデジタル方式への移行を一体的に行うことで、効率化を図り、導入費用の低廉化を進めます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
		平成23年度は、計画的どおりに事業が進捗しました。平成24年度も工程表に従い、順調に事業は進捗しています。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成27年度のシステム運用に向けて、工程表に従い事業を進めていきます。	当事業の成果の検証を、毎年度数値で検証することは困難ですが、システムの強化は不可欠であり、平成27年度のシステム運用を目指し、事業を計画的に進めることで成果が上がるものと判断します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	特殊災害対策の強化						施策番号				
							II-1-(4)-②				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,750 千円	(備考)	担当局	消防局		
		7,329 千円	17,000 千円		課長	0 人		職員	0.5 人	担当課	警防課
					係長	0 人				課長名	柘嶋

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	大規模自然災害、NBC(N:放射性物質等、B:生物剤等、C:化学剤等)災害等の多種多様にわたる災害において、人命救助活動に必要な資機材を整備し、災害対応能力の向上を図っていきます。	成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、訓練等を通じて、災害発生時に即応できる能力の向上が図られていると考えます。
-----------	--------------------	--	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	災害対応能力の向上	災害対応能力の向上を数値で示すことは困難ですが、代替の指標を設定するなど検討を進めます。 (最終目標と目標年度)		向上	向上	
(最終目標と目標年度)				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

活動計画	大規模自然災害、NBC災害等の特殊災害における人命救助活動に必要な資機材を整備し、災害対応能力の向上を図っていきます。	活動実績	下記活動実績のほか、救急救助技術発表会等
-------------	---	-------------	----------------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	特殊災害対応訓練の実施	消防機関の訓練以外に、関係機関(警察、医療機関、海上保安庁)と合同で訓練することにより、災害発生時に関係機関とスムーズに連携を図ります。 ※ NBC災害訓練、水難事故対応訓練、集団救急救助訓練(各1回)	3 回	3 回	3 回	
救助資機材の配備	要救助者の苦痛軽減や症状の悪化防止及び迅速な救助救出活動に効果的な資機材を整備し、災害対応能力の向上を図っていきます。	水中探査 ソナー及び 水中スピー カーを折尾 分署に配 備	電磁波探査装置 を高見出張所(特別高度救助隊)に 配備	100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 予定していた資機材を導入し、特殊災害対応型消防活動資機材の整備が図られました。消防以外の関係機関(警察、医療関係、海上保安庁)との連携強化を図る必要があります。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 資機材の整備は、同等資機材と比較し、性能・仕様の簡便さなどを考慮して効率的に事業を推進しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 平成23年度は、予定していた資機材を導入し、特殊災害対策の強化が図られました。平成24年度も、資機材の整備や各関係機関と合同訓練の実施など計画的に事業は推進しています。 次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	引き続き、各関係機関との合同訓練の実施など計画的に事業を進めていきます。なお、資機材の購入計画により事業費は減額となっています。 当事業の成果を、毎年度数値で表すことは困難ですが、資機材の整備や各関係機関と合同訓練の実施など計画的に事業を進めることで、成果が上がるものと判断します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	緊急通報システム							施策番号
								Ⅱ-2-(1)-③
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	50,625 千円 (備考)	担当局	消防局
		63,511 千円	72,387 千円		課長	0.9 人 職員 2.97 人	担当課	予防課
					係長	1.8 人	課長名	内藤

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	高齢者や重度身体障害者がいる世帯の火災やガス漏れ、救急要請などの緊急通報を消防指令センターで直接受信し対応することにより、火災・救急による被害の低減を図るとともに、高齢者等が住み慣れた家庭で安心して生活できるよう支援します。	成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、緊急通報システム設置世帯へ質の高い行政サービスを行うことで高齢者等の安全な生活が実現されていると考えます。
-----------	--------------------	--	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	高年齢等の安全な生活の実現	緊急通報システムの設置世帯数は、今後さらに増加していくと予想されます。設置世帯数の増加に対して、質の高い行政サービスを実施することで、高齢者等の安全な生活の実現を図ります。 (最終目標と目標年度) 行政サービスの維持・向上	高年齢等の安全な生活の実現	高年齢等の安全な生活の実現	%	大変順調
(最終目標と目標年度)				%	順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

活動計画	保健福祉局高齢者支援課及び各区役所保健福祉課と連携し、緊急通報システムの制度概要や使い方をわかりやすく説明したリーフレット等を作成・活用し、設置世帯や市民へ周知します。	活動実績	当事業の活動の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、緊急通報システムの行政サービス維持・向上を図るためのリーフレットを作成・配布等を行います。
-------------	--	-------------	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	緊急通報システムの行政サービス維持・向上を図るためのリーフレット作成	保健福祉局高齢者支援課、消防局、各消防署、各区役所保健福祉課で、積極的にリーフレットの配布や説明等を実施し、行政サービスの維持・向上を図ります。	リーフレット作成・配布・説明	リーフレット作成・配布・説明	%	大変順調
(最終目標と目標年度)				%	順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 保健福祉局高齢者支援課、消防局、各消防署、各区役所で実施しているリーフレットの配布・説明等の活動が充実しており、緊急通報システムについて設置世帯や市民へ周知できています。このことは、近年の緊急通報システム設置世帯の増加に対して、行政サービスの維持・向上が図られているといえるため、成果の状況、活動の状況いずれも「大変順調」としました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 現在のシステムを運用開始して10年が経過した平成16年度から、継続的に保守委託費などのランニングコスト削減に取り組んできました。結果、市民へのサービス水準を維持しつつ、年度事業費の最高額から約半減を達成しました。よって、費用対効果の面からみても適当だと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 指令センター業務の支障になる、緊急でない通報を頻回に行う利用者に対して、消防局、保健福祉局及び各区役所等が協力して対応することにより、緊急でない通報の件数を減少させ、本当に対応が必要な緊急の通報を早期に受信できる体制を維持するなど、質の高い行政サービスを実施しています。 市の厳しい財政事情を鑑み、増加傾向にある設置世帯に対して、質の高い行政サービスを維持していくことが、今後の課題です。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	設置世帯は増加傾向にあるため、市の厳しい財政事情を鑑み、緊急通報システム端末機器の故障時における代替品の購入計画を見直しました。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	いきいき安心訪問						施策番号			
							II-2-(1)-③			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,615 千円	(備考)	担当局	消防局	
		7,843 千円	8,973 千円		課長	0.01 人		職員	0.4 人	担当課
			係長		0.05 人			課長名	柁嶋	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	女性消防団員が2人1組となって、一人暮らしの高齢者宅を訪問し、防火防災に関する指導や、家庭内救急事故の予防指導等を実施することで、火災や重大な事故の発生を未然に防ぐことを目的としています。 また、訪問の際に緊急通報システムの設置等も紹介し、有事の際に迅速に対応できるようにしています。				成果実績	成果を数値で示すことは困難ですが、訪問先の多くの高齢者に感謝されていると考えています。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	火災や重大事故の未然防止					代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	一人暮らしの高齢者宅を訪問し、防火防災に関する指導や、家庭内救急事故の予防指導等を実施することで、火災や重大な事故の発生を未然に防ぐことを目指します。 (最終目標と目標年度)			%					
	(最終目標と目標年度)				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調		

活動計画	女性消防団員により、年間2,464世帯の訪問を行う。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	女性消防団員による防火訪問			実施		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	ホームヘルパー2級や応急手当普及員の資格を持った女性消防団員が福祉的要素を取り入れた防火訪問を行う。	実施	実施	%					
	いきいき安心訪問世帯数				2562 世帯	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調		
現在定められている女性消防団員の定数(154人)で訪問可能な最大数を目標として実施しています。	2,480 世帯	2,464 世帯	104.0 %						

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	年間の訪問世帯数は、あくまでも目標数であり、女性消防団員の条例定数を参考に設定しています。そのため、在籍団員数が定数に満たないと訪問数が減少します。また、消防団員は、他に本職を持っているため、目標数を達成できないこともあります。そのような中、昨年、今年と目標値を大きく超える実績を残すことが出来ました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	女性消防団員の大半がホームヘルパー2級及び応急手当普及員の資格を有しています。同等以上の資格を有する者のサービスをより安価に受けるのは困難です。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 女性消防団員による「いきいき安心訪問」は地域の人々から好評を博していて、訪問世帯数の増加が要望されています。よって、年間の訪問世帯数を増やしていくのが今後の課題です。しかし、ほとんどの女性消防団員が働いているため、単純に訪問世帯数を増加させることは困難です。そのため、訪問世帯数を増やすことができるよう検討していきます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	「現状維持」 年間の訪問世帯数は、女性消防団員の条例定数を参考に設定しています。次年度にあっても、現在の年間訪問世帯数を目標にして事業を進めます。	一人暮らしの高齢者宅を訪問し、防火防災に関する指導や、家庭内救急事故の予防指導等を実施することで、火災や重大な事故の発生を未然に防ぐことを目指します。(年間訪問世帯数:2,464世帯)

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	アジアの消防リーダーとしての国際協力							施策番号	
								Ⅱ-3-(4)-②	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	10,000 千円	(備考)	担当局	消防局
		11 千円	6 千円		課長	0 人 職員 0.8 人		担当課	訓練研修センター
					係長	0.4 人		課長名	坂田

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	本市消防局は、長年にわたりJICA「消火技術」コースをはじめ様々な国際協力事業を行ってきたことによる貴重なノウハウを有しています。これを活かし、国際協力機構など関係機関との連携において、アジア地域を中心に本市の消防技術を伝達していき、更なる国際協力・交流を推進していきます。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	--------------------	---	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		アジア地域からの研修員受入継続 継続的に技術支援を行うことが、国際協力の推進につながります。平成21年度のアジア受入研修員6人を目標基準として、事業を推進していきます。 (最終目標と目標年度) 100%(毎年度)	15 人	6 人	9 人 150.0 %	
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

活動計画	今年度は、JICA消火技術研修、仁川火災調査研修において、アジア地域から研修員を受け入れます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		アジア地域への研修参加呼びかけ JICA消火技術研修については、アジア地域からの参加希望数が毎年流動的であるため、アジア地域への研修参加の呼びかけ等をJICAへ依頼し、継続的な研修員受け入れを進めていきます。	実施	アジア地域からの研修参加呼びかけ	実施 %	
				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	成果、活動は予定通りであり、大変順調です。 JICA消火技術研修については、アジア地域からの参加希望数が毎年流動的であるため、アジア地域への研修参加の呼びかけ等をJICAへ依頼し、継続的な研修員受け入れを進めていきます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	研修費用の大部分は、相手国又は国際協力機構等の関係機関から負担されており、最小経費での受入れが行われていると考えます。今年度においても、投入コストを上げることなく、低コストにおいて目標標準を大きく上回る結果となり、国際協力の推進として十分な効果が得られたと考えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	平成24年度は仁川火災調査研修が相手国の都合により中止となり、JICA消火技術研修においてはアジアからの参加国が少ない等、目標値の達成が難しい状況です。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	JICA消火技術研修を中心に、JICAを通じてアジア地域からの研修参加を呼びかけ、継続的な研修員受け入れを進めていきます。事業費は現状維持としています。	継続的かつ安定したアジアからの研修員数を確保し、アジアの消防リーダーとしての国際協力を推進します。 アジア受入研修員6人を目標とします。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	消防音楽隊による文化活動						施策番号		
							Ⅲ-2-(2)-③		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	4,800 千円 (備考)	担当局	消防局	
		8,040 千円	9,504 千円		課長	0 人 職員 0.44 人	担当課	人事企画課	
			係長		0.15 人	課長名	小清水		

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州市主催の式典や消防の各種行事に出演し、市民参加向上の役割を担うとともに、音楽隊の演奏やカラーガード隊の演技を通じて、北九州市のPR活動や防火・防災普及啓発活動を実施します。 併せて、幼少年の健全な育成等に寄与することを目的に、教育機関と連携し、積極的に幼少年教育(消防“夢”コンサートの開催)に貢献します。			成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、音楽隊の演奏やカラーガード隊の演技を通じて、防火・防災の普及啓発を図られていると考えます。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	防火・防災普及啓発					代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	音楽隊の演奏やカラーガード隊の演技を通じて、防火・防災の普及啓発を図ります。 (最終目標と目標年度)			%				
	消防音楽隊出演回数	172 回	150 回	147 回	98.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調	
訓練日数の確保等から年間150回程度の出演が適切であると考えます。公演内容を工夫することなどにより依頼校の確保に努めます。 (最終目標と目標年度) 毎年度150回程度								

活動計画	警察音楽隊は、県下全域の出演を担当し多忙であることから、警察音楽隊の負担とならぬよう、日程調整を密に行っていきます。毎月18日に北九州市で行う安全安心コンサートに共演できるよう計画を立てる予定です。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	警察音楽隊との合同演奏			2 回		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	警察と消防という市内の安全・安心を担う二つの組織が連携し、音楽を通じて「安全・安心」を市民にPRします。両音楽隊ともに出演多忙であること、他の行事とのバランス等を考慮し、年2回の合同開催を目標としています。	0 回	2 回	100.0 %					
	ホームページアクセス件数	7,311 件	6,000 件	27,263 件	454.4 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調		
ホームページアクセス件数の増加により、市民に消防音楽隊の活動内容等を知ってもらうことで、知名度が上がり、出演依頼の増加に繋がると考えられます。そのためには、出演内容・状況等を積極的に更新し、見られるホームページを作成する必要があります。他の業務とのバランス及び過去のアクセス件数の推移等から、平成21年度から毎年1,000件の増加を目指しています。									

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年度出演回数は147回で前年の172回と比較減少しましたが、観覧者からは好評価を得ています。東日本大震災を受け、平成23年度当初は自粛ムードで、前年度から出演依頼のあった行事などもキャンセルが続出したことなどが減少理由の一つと考えられます。なお、ホームページアクセス件数は昨年の4倍以上となっており、音楽隊の活動について市民の関心は高いと判断できます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	消耗品等は、必要最小限に抑え、出演は無償で行っていることから、これ以上コスト削減の余地は現在のところありません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成24年度についても、目標としている年間150回程度の出演回数となる予定であり、順調に事業を推進できています。訓練日数の確保と出演とのバランスを取りながら、より効果的な出演を実施していく必要があります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	年間出演回数150回程度の維持と演奏・演技を通じた防火・防災の普及啓発を推進していきます。
	平成25年度は、音楽隊常用演奏服の更新延伸や消耗品等を削減することにより、事業費は縮小しますが、そのような中でもより高い成果が得られるよう、公演内容を工夫していきます。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	アジアの消防リーダーとしての国際協力							施策番号	
								VII-1-(3)-②	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	10,000 千円	(備考)	担当局	消防局
		11 千円	6 千円		課長	0 人 職員 0.8 人		担当課	訓練研修センター
					係長	0.4 人		課長名	坂田

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	本市消防局は、長年にわたりJICA「消火技術」コースをはじめ様々な国際協力事業を行ってきたことによる貴重なノウハウを有しています。これを活かし、国際協力機構など関係機関との連携において、アジア地域を中心に本市の消防技術を伝達していき、更なる国際協力・交流を推進していきます。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	--------------------	---	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	アジア地域からの研修員受入継続	継続的に技術支援を行うことが、国際協力の推進につながります。平成21年度のアジア受入研修員6人を目標基準として、事業を推進していきます。 (最終目標と目標年度) 100%(毎年度)	15 人	6 人	9 人 150.0 %	
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

活動計画	今年度は、JICA消火技術研修、仁川火災調査研修において、アジア地域から研修員を受け入れます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	アジア地域への研修参加呼びかけ	JICA消火技術研修については、アジア地域からの参加希望数が毎年流動的であるため、アジア地域への研修参加の呼びかけ等をJICAへ依頼し、継続的な研修員受け入れを進めていきます。	実施	アジア地域からの研修参加呼びかけ	実施 %	
				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	成果、活動は予定通りであり、大変順調です。 JICA消火技術研修については、アジア地域からの参加希望数が毎年流動的であるため、アジア地域への研修参加の呼びかけ等をJICAへ依頼し、継続的な研修員受け入れを進めていきます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。」	研修費用の大部分は、相手国又は国際協力機構等の関係機関から負担されており、最小経費での受入れが行われていると考えます。今年度においても、投入コストを上げることなく、低コストにおいて目標標準を大きく上回る結果となり、国際協力の推進として十分な効果が得られたと考えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題
	平成24年度は仁川火災調査研修が相手国の都合により中止となり、JICA消火技術研修においてはアジアからの参加国が少ない等、目標値の達成が難しい状況です。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	JICA消火技術研修を中心に、JICAを通じてアジア地域からの研修参加を呼びかけ、継続的な研修員受け入れを進めていきます。事業費は現状維持としています。
	継続的かつ安定したアジアからの研修員数を確保し、アジアの消防リーダーとしての国際協力を推進します。 アジア受入研修員6人を目標とします。